



CURATORの10年 オープンアクセスの10年



国立情報学研究所
尾城 孝一

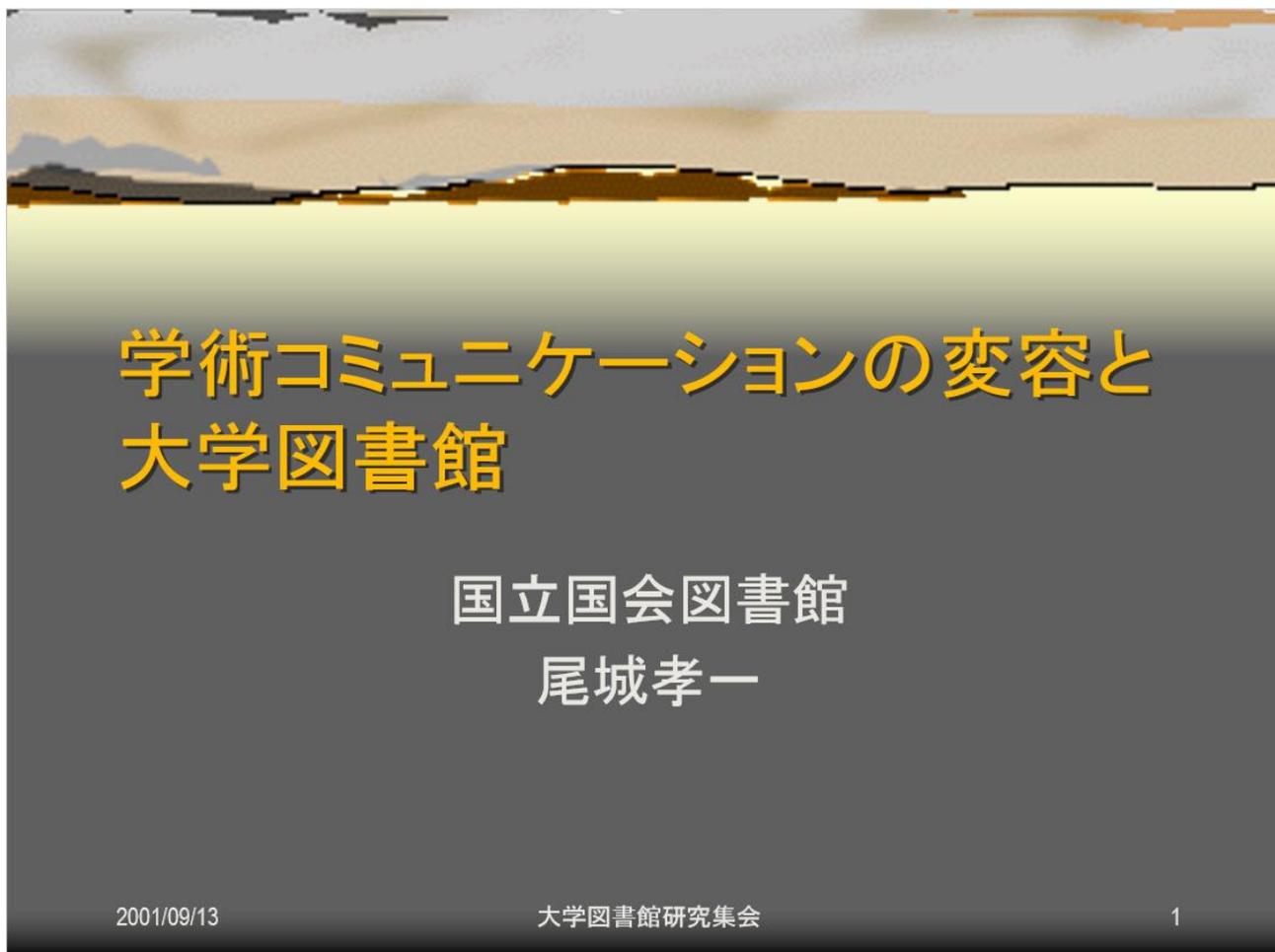
平成14（2002）年度～16（2004）年度

千葉大学附属図書館情報サービス課長

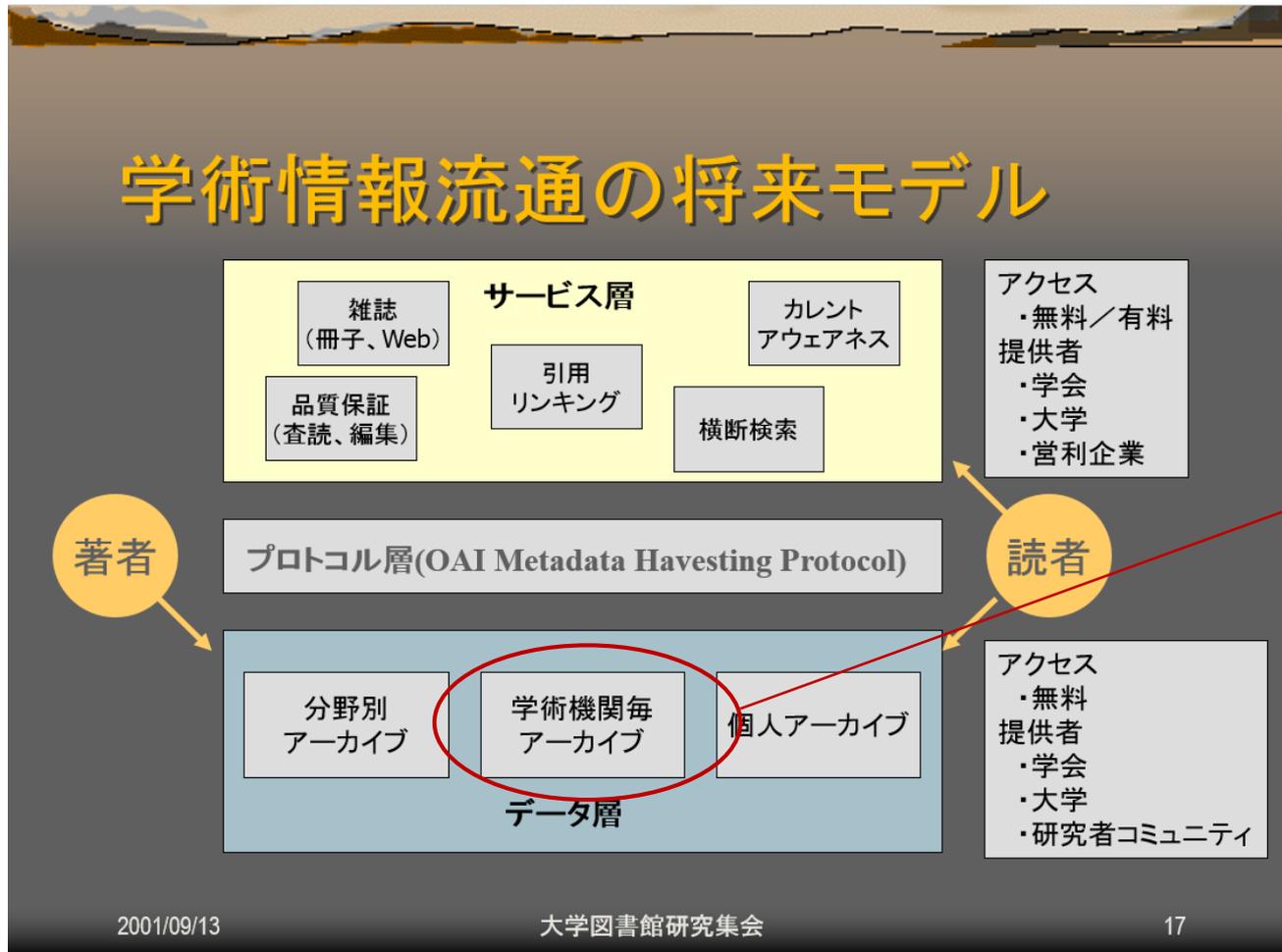
CURATORの誕生（秘話）



学術コミュニケーションの変容と大学図書館



学術情報流通の将来モデル



審議のまとめ

- 科学技術・学術審議会『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』（平成14年3月12日）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm

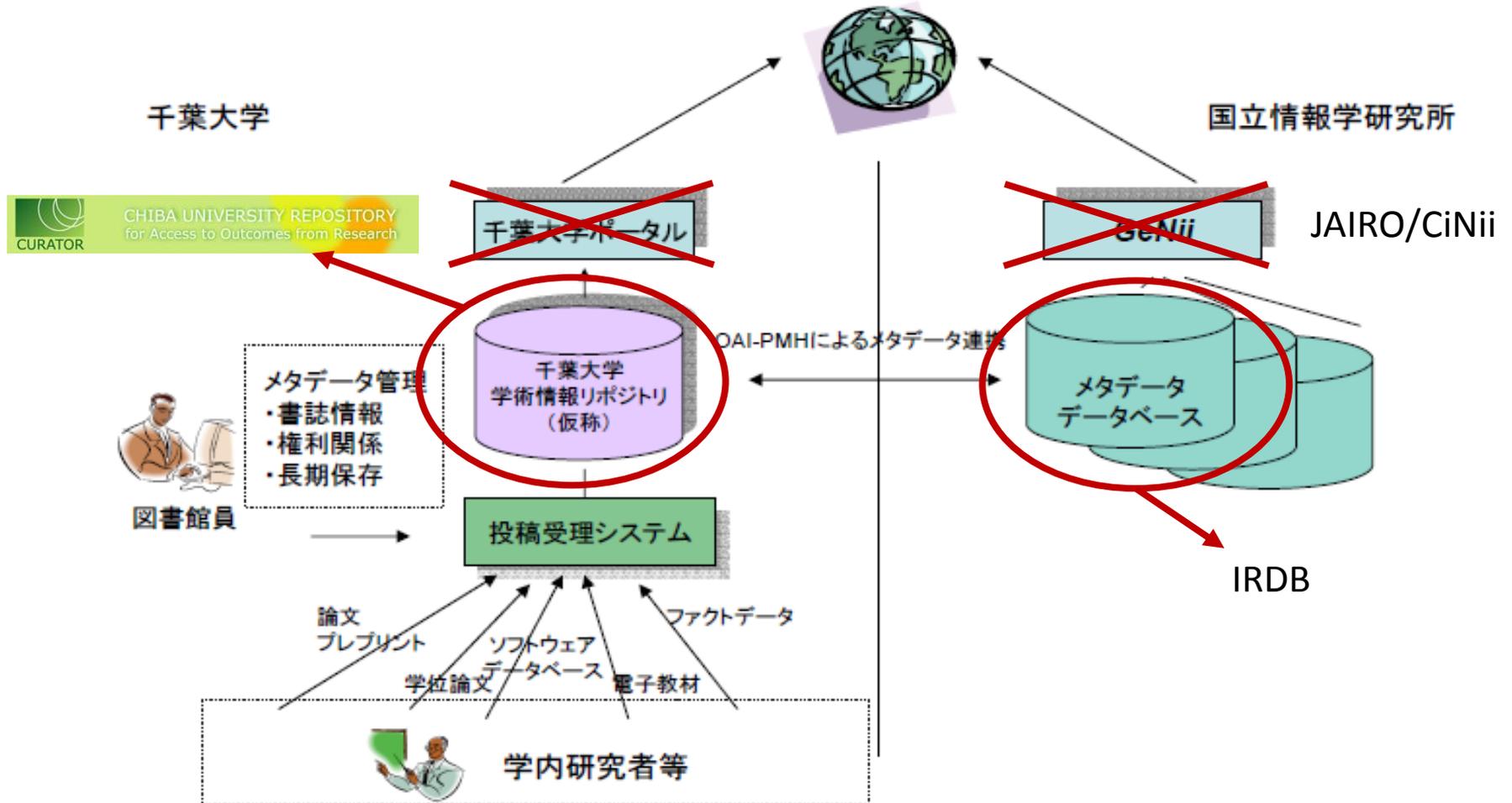
- 「大学等から発信される様々な学術情報が簡便に利用できるためには、**総合的な情報の発信窓口（ポータル機能）**を設置し、統一的な規約によって情報を発信する必要がある。このために、大学図書館が中心となって、、、情報発信のためのシステムの設計・構築を行う必要がある」

学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善

- 文部科学省研究振興局情報課「学術情報の発信に向けた図書館機能改善連絡会」（平成14年5月）
- 電子図書館の予算措置を受けた15の国立大学を招集
 - 東北大学、筑波大学、**千葉大学**、東京大学、東京学芸大学、東京工業大学、一橋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、広島大学、九州大学、佐賀大学、鹿児島大学、奈良先端科学技術大学院大学
- 『学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告書）』（平成15年3月）

<http://www.janul.jp/j/documents/mext/kaizen.pdf>

千葉大学学術情報リポジトリ（仮称） （プロトタイプ）



今後の展望

- プロトタイプの完成（平成15年3月）
- 試行運用の開始（協力者グループを対象）（平成14年4月～9月）
- 正式版の設計・開発（平成15年10月～平成16年3月）
- 「千葉大学学術情報リポジトリ」正式運用（平成16年4月～） → 平成17年4月
- ポータル機能の高度化着手（平成16年4月～）

『学術情報発信に向けた大学図書館機能の改善について（報告書）』 p.27

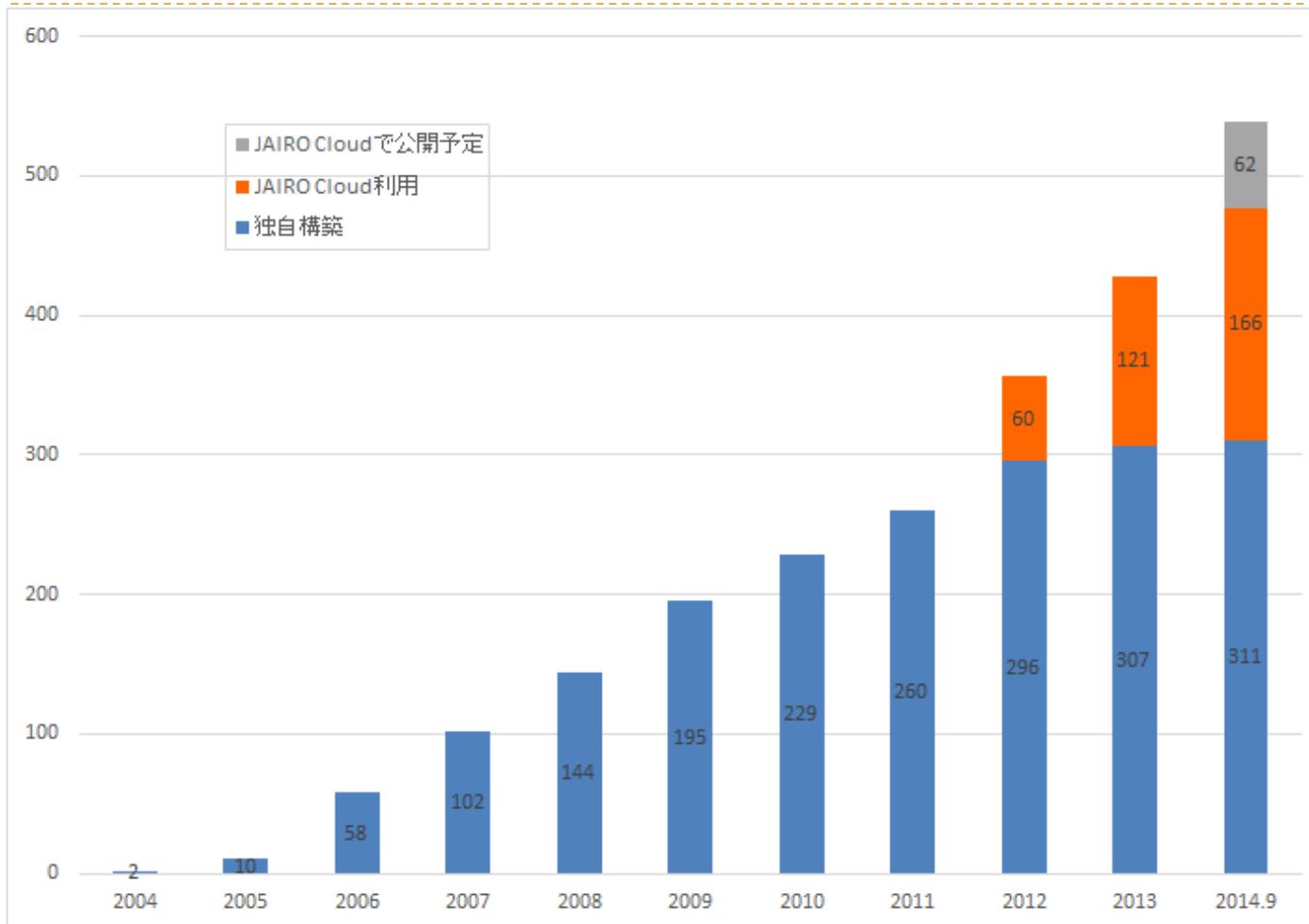
CURATOR関連の仕事

- 立ち上げ準備
- リポジトリ・ソフトウェアの独自開発→E-Repository
- 『学術機関リポジトリチェックリストおよびリソースガイド』 翻訳
http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/about/SPARC_IR_Checklist.pdf
- 各種委員会
 - 学術情報発信に関する懇談会
 - 学術情報発信のための協力者会議
 - 学術情報発信専門委員会
- 学内合意形成
- CURATOR (Chiba University's Repository for Access To Outcomes from Research) の命名

機関リポジトリの10年



国内のリポジトリ公開機関数



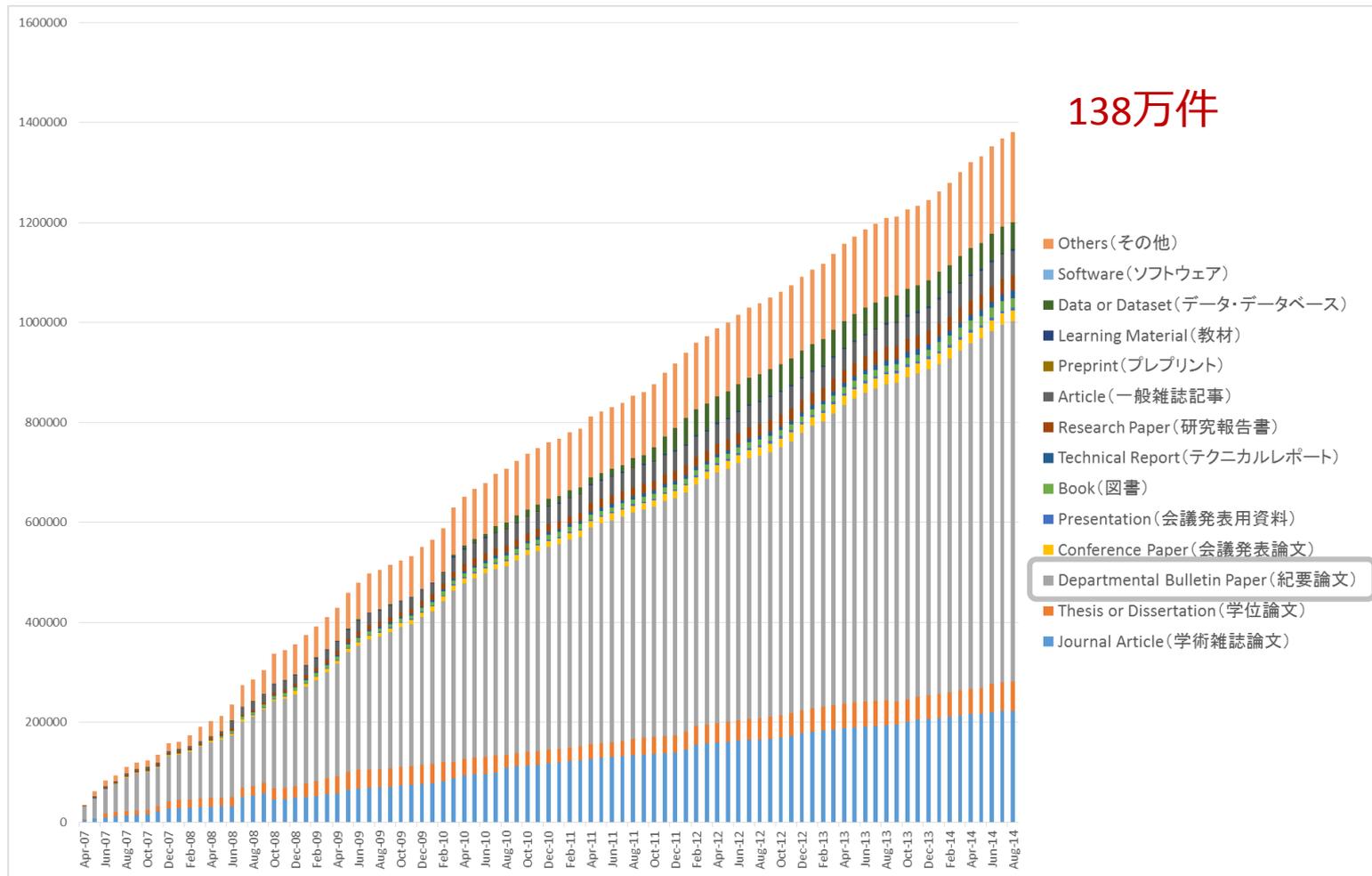
539!

OpenDOARによれば
米国は454

← NIIによる構築支援事業実施 →

平成26（2014）年9月末現在

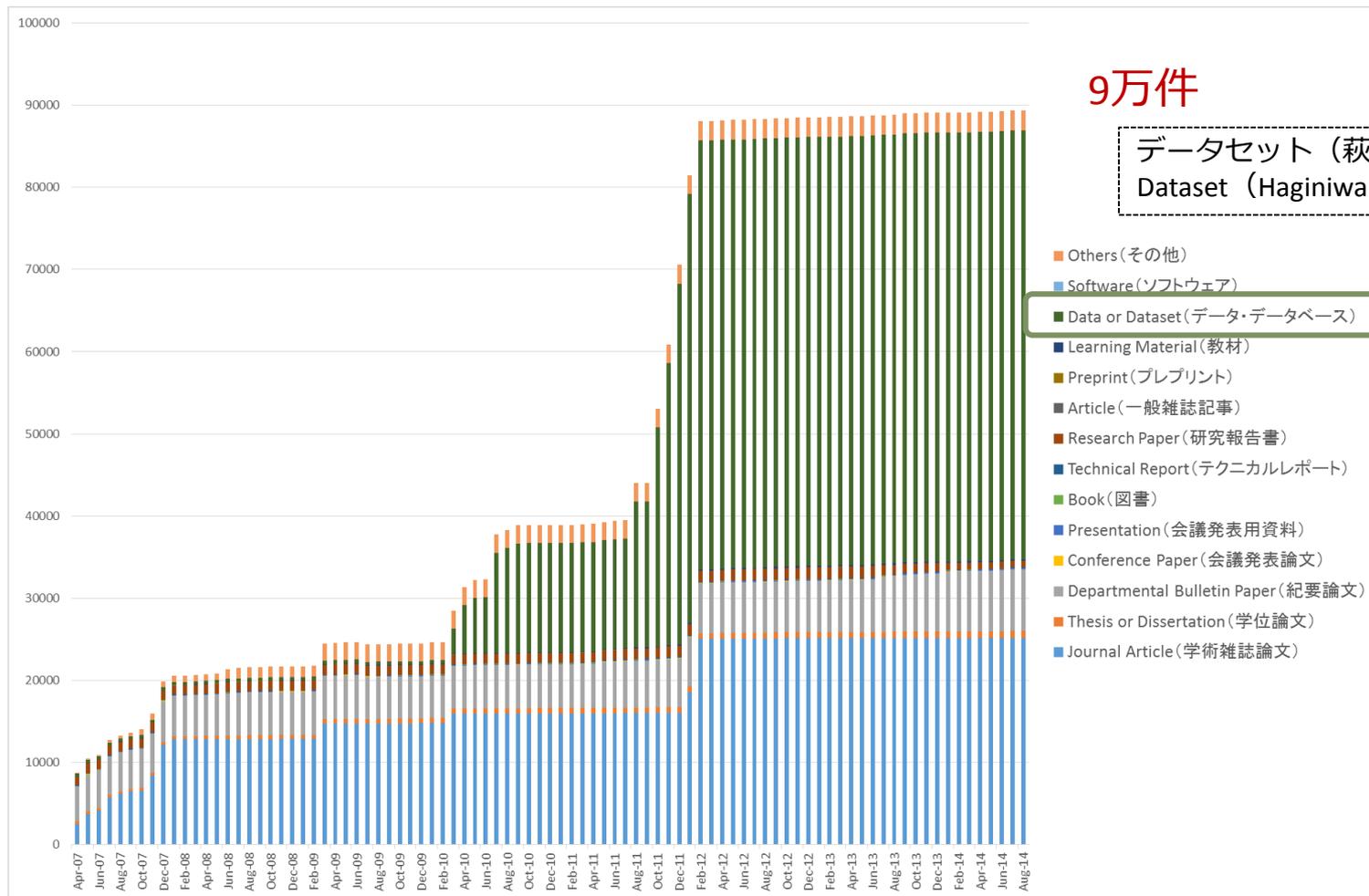
コンテンツ（本文あり）の蓄積



NII/IRDBによる集計



コンテンツ（本文あり）（CURATOR）



NII/IRDBによる集計

萩庭さく葉コレクション

一覧 (ブラウジング)

→ 資源タイプ

→ 作成者

→ 登録日

- プレプリント Preprint (12)
- テクニカル・レポート Technical Report (35)
- 会議発表論文 Conference Paper (23)
- 紀要論文 Departmental Bulletin Paper (7598)
- 雑誌掲載論文 Journal Article (24981)
- 博士論文 Doctoral Thesis (920)
- 研究報告書 Research Paper (803)
- 単行書 Book (2)
- 単行書の章 Book Chapter (33)
- 教材 Teaching Material (201)
- データセット Dataset (398)
- **データセット(萩庭) Dataset(Haginiwa) (51818)**
- 会議発表用資料 Presentation (123)
- 一般雑誌記事 Article (2)
- その他 other (1796)

JH-No:JH029960



科名(ラテン):ウコギ科(Araliaceae)

和名: エゾウコギ

属名: Acanthopanax

種名以下: senticosus Harms

採集地: 北海道 釧路 標茶町 塘路

採集日: 1974/7/23

採集者: 萩庭丈寿

備考:

箱番号: 129

都道府県:
北海道



前へ戻る 検索のページへ戻る ホームページへ戻る

[次のデータへ](#)

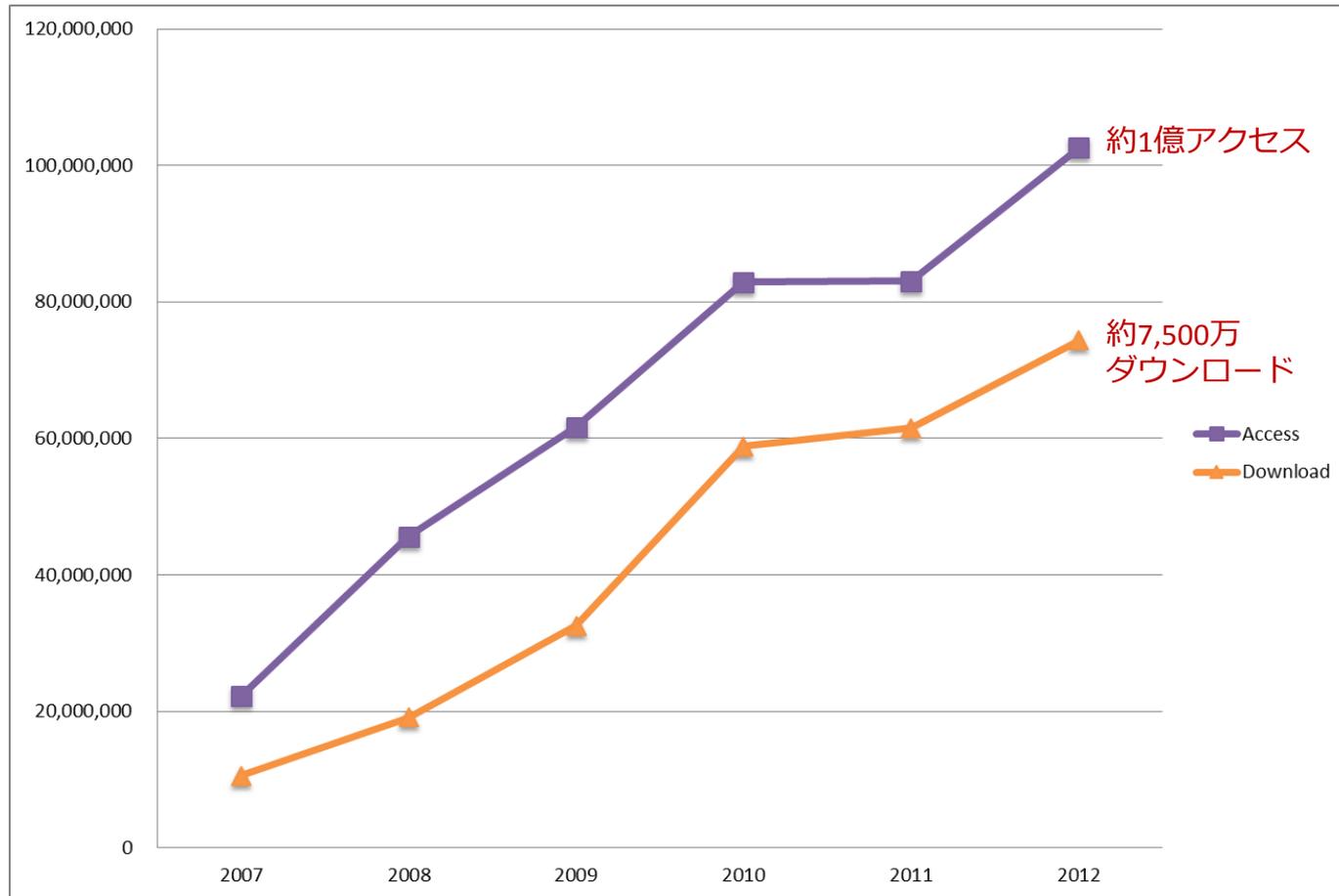
千葉大学附属図書館: 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

TEL: 043-290-2253

© 2004 Chiba University Library. All Rights Reserved.

CURATOR Logo: Designed by Kiyoshi Miyazaki Labo. Fac. Eng. Chiba Univ. 2005 All Rights Reserved.

利用件数（年間）



文部科学省学術情報基盤実態調査より

機関リポジトリで学位取得

The screenshot shows the WEKO (Worldwide Electronic Knowledge Organization) interface. At the top, there's a navigation bar with links like 'リポジトリトップ', 'リポジトリについて', 'File Upload', 'Q&A', and '問い合わせ'. Below that, the 'WEKO' logo and 'トップ' / 'ランキング' tabs are visible. A search bar contains the name '佐藤翔' (Sho Sato) and search options for '全文検索' (Full text search) and 'キーワード検索' (Keyword search). A sidebar on the left lists various departments and research centers. The main content area displays search results for 'コンテンツタイプ別 (Content type)' and '博士論文全文 (Doctoral dissertation - Full text)'. A specific result is highlighted: '2838.pdf' (2.25MB) with 19 downloads. Below this, a table provides metadata for the document.

File / Name	
2838.pdf	
2838.pdf (2.25MB) [19 downloads]	
アイテムタイプ	Thesis or Dissertation
言語	日本語
著者	佐藤 翔
著者別名	サトウ ショウ
内容記述	筑波大学博士 (図書館情報学) 学位論文・平成25年3月25日授与 (甲第6645号)
発行年	2013
著者版フラグ	author
NIIサブジェクト	情報学
URI	http://hdl.handle.net/2241/118741
公開状況	公開

<http://hdl.handle.net/2241/118741>

コンテンツ入手元として
機関リポジトリが果たしている役割

筑波大学
図書館情報メディア研究科
2013年3月
佐藤 翔

課題

1. 「図書館」リポジトリにとどまった
2. グリーンOAが進まなかった
3. ポリシーが弱い
4. 文献リポジトリの壁を越えられなかった
5. CSI委託事業の成果の展開ができなかった

1. 「図書館」リポジトリにとどまった

機関リポジトリの神話と真実
(試作版)

平成17年11月17日

(神話1)
機関リポジトリは、図書館の事業である

(真実)

- 図書館単独の事業ではない。
 - あくまで「機関」リポジトリであり、「図書館」リポジトリではない。大学等の「機関」の事業である。それ故、全学的な合意の下に、計画を進めなければならない。

1

2. グリーンOAが進まなかった

(査読済み学術論文の捕捉率)

- 2012年に出版された日本人研究者による学術論文 (Web of Science 収録) は、約74,000件
(The Research & innovation performance of the G20, March 2014)
- 日本の機関リポジトリに登録されている、査読済み学術論文 (本文あり) のうち、2012年出版の英語論文は、4,094件
(NIIの統計、2014年10月6日現在)
- 捕捉率は**5.5%**

(参考) 筑波大学の事例

筑波大学における論文登録実績(2012年)

論文はWeb of Scienceより週次で抽出

月	学内者の論文数	依頼可能数	エンバーゴ付	登録件数	登録率
1月	129	62	0	18	13%
2月	131	72	9	16	12%
3月	210	111	13	39	18%
4月	136	82	18	24	17%
5月	122	52	12	17	13%
6月	165	75	16	21	12%
7月	134	80	18	39	29%
8月	100	25	16	7	7%
9月	136	32	14	10	7%
10月	204	53	15	21	10%
11月	196	56	20	21	10%
12月	158	28	4	7	4%
総計	1821	728	155	240	13%

平成24年度西大図協学術情報流通セミナー

21

出典：
内島秀樹. 機関リポジトリの現状と動向. 国立大学図書館協会学術情報流通セミナー. 2013.1.24

グリーンOAのポテンシャル

- Scopusに採録されているトップ100出版社の論文約115万報*の著作権ポリシーを調査 (*Scopus収録全論文の68%)
- 潜在的なグリーンOA論文数は約93万報(81%)

-	Article count	% of studied articles
Immediately upon publication	709 773	62%
6 months	47 023	4 %
12 months	151 932	13 %
18 months	20 935	2 %
24 months	3 253	0%
Potential green OA	932 916	81%
Not allowed	217 911	19%
Total articles studied	1 150 827	100%

出典:

Bo-Christer Bjork, Mikael Laakso, Patrik Welling, Patrik Paetau. "Anatomy of Green Open Access".
This is a preprint of an article accepted for publication in *Journal of the American Society for Information Science and Technology*.

<http://www.openaccesspublishing.org/apc8/Personal%20VersionGreenOa.pdf>

グリーンOAのポテンシャル（国内学協会誌論文）

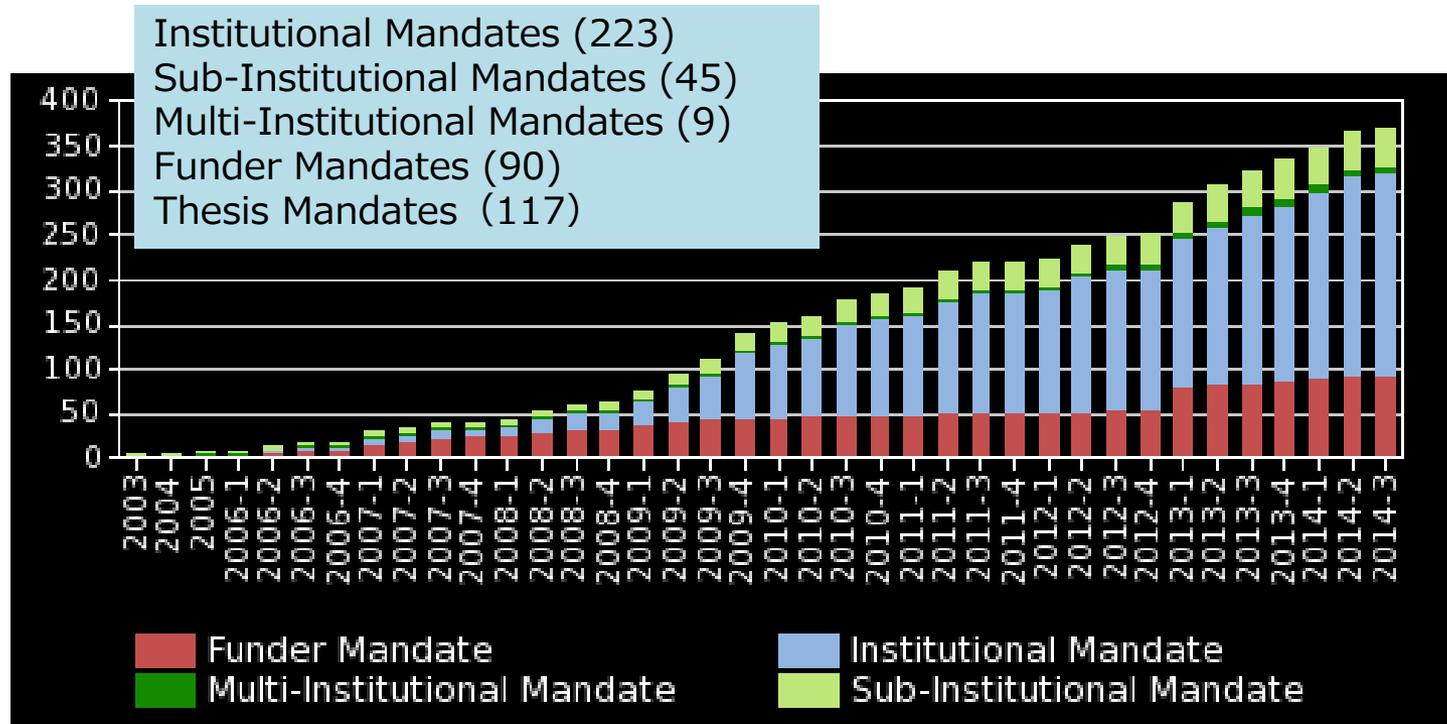
領域	総論文数 (a)	収録許可 論文数(b)	許可率 (b/a)	リポジトリ 収録数(c)	リポジトリ 収録率 (c/b)
人文・社会	147,221	49,168	33.4%	1,415	2.9%
生命科学	484,580	182,299	37.6%	3,570	2.0%
理学・工学	345,536	204,624	59.2%	3,439	1.7%
複合領域	18,102	5,895	32.6%	94	1.6%
計	995,439	441,986	44.3%	8,518	1.9%

出典:

清水真理, 佐藤翔, 逸村裕. 日本の学協会誌掲載論文の機関リポジトリ収録状況.
 情報知識学会・第20回(2012年度)年次大会 筑波大学東京キャンパス 2012年5月20-21日.
<http://hdl.handle.net/2241/117059>
 に基づき修正

3. ポリシーが弱い

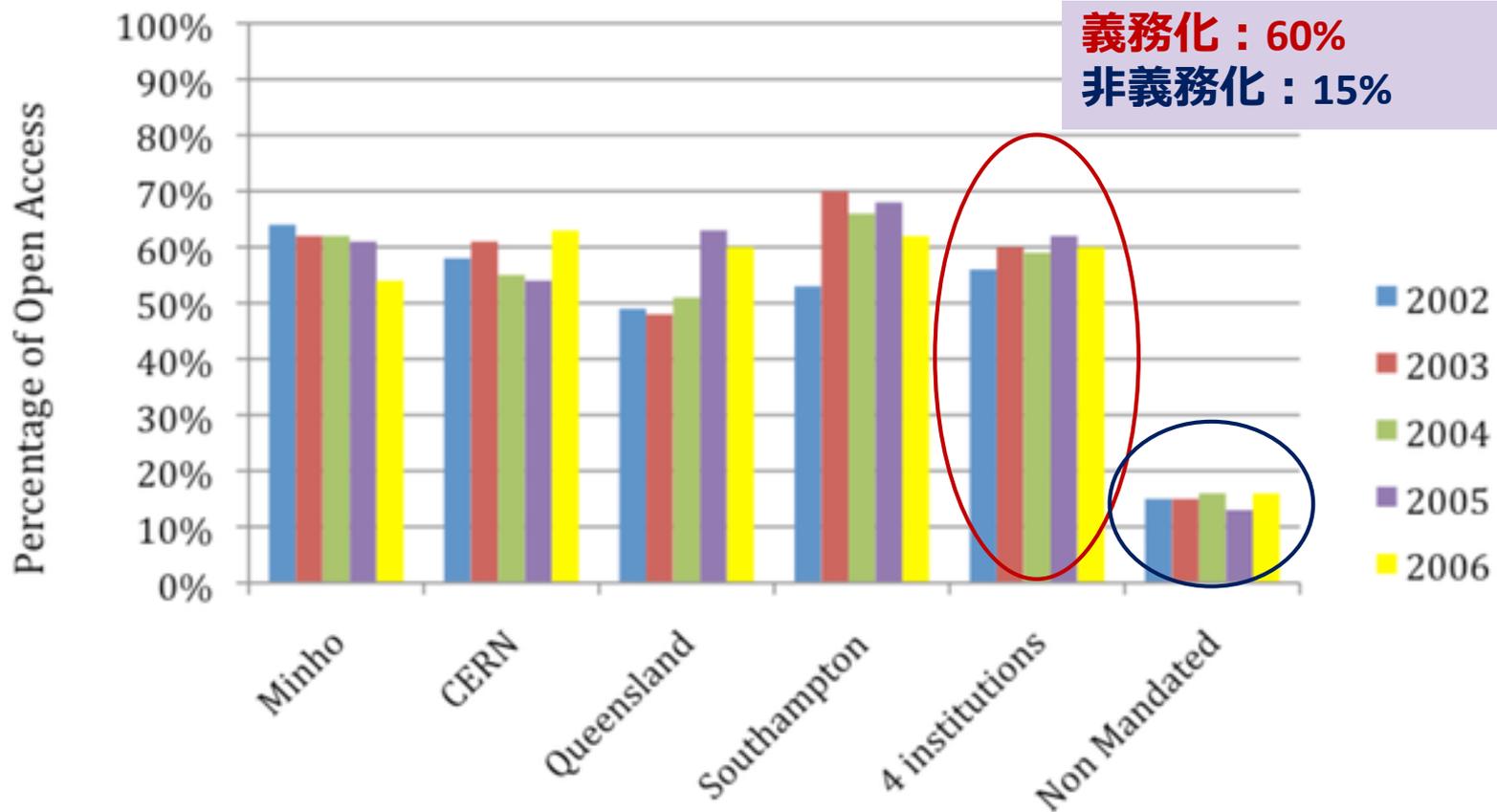
機関リポジトリへの登録義務化の状況



ROARMAP (<http://roarmap.eprints.org/>)

日本の登録状況: 北大、文科省(学位論文)のみ

義務化の効果



Gargouri Y, Hajjem C, Larivière V, Gingras Y, et al. (2010) Self-Selected or Mandated, Open Access Increases Citation Impact for Higher Quality Research. PLoS ONE 5(10): e13636. doi:10.1371/journal.pone.0013636
<http://www.plosone.org/article/info:doi/10.1371/journal.pone.0013636>

hita-hita



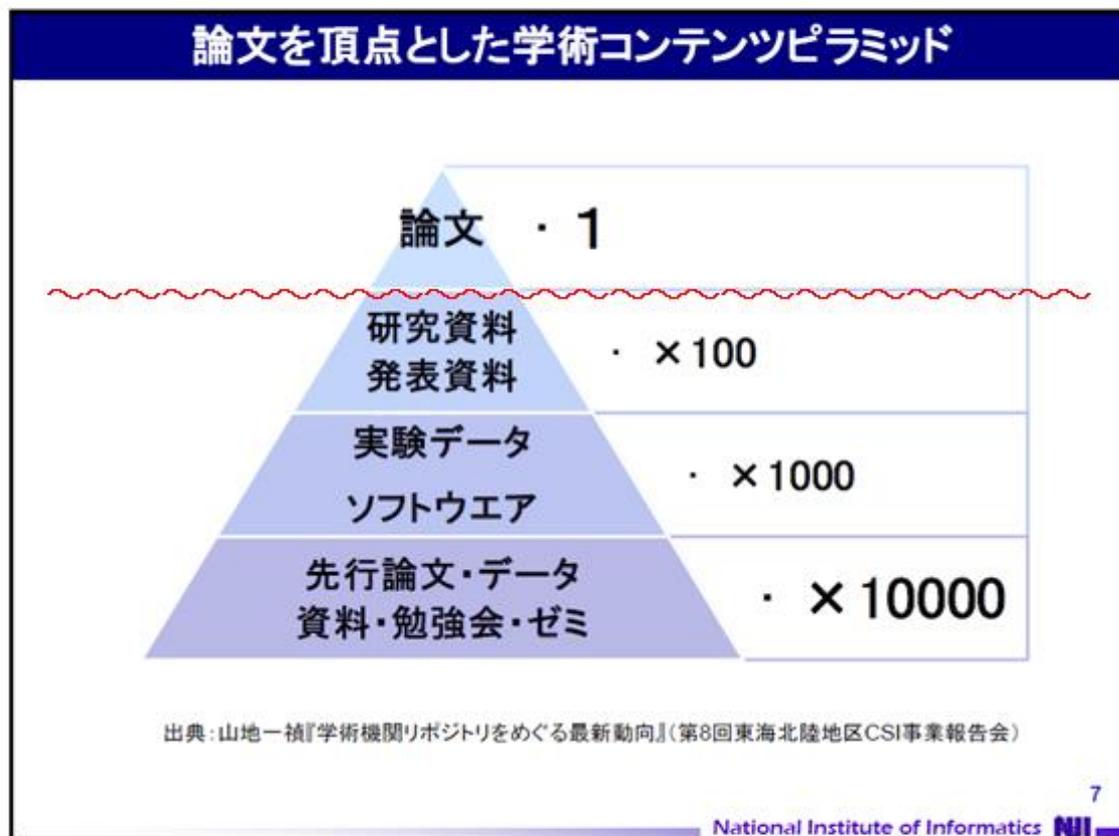
**Hita-Hita: grass roots open access
advocacy and institutional
repositories in Japan**

TSUCHIDE, Ikuko (DRF)
12/07/2012
The COAR workshop in ICTK 2012
India, Bangalore



1

4. 文献リポジトリの壁を越えられなかった



DRF/ShaRe地域ワークショップ（北海道・東北地区）
日時：平成20年12月11日（木）13:00-17:00, 12月12日（金）9:00-16:00
会場：山形大学SCITAセンター

この画像、あなたなら、どう検索しますか？

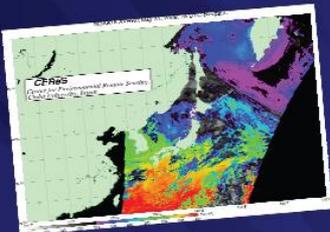


"Data-driven"

データの使い方を利用者に委ねることで研究の可能性を無限に広げてゆくのe-Scienceの魅力。

でも、アクセスできなければ、その可能性は眠ったまま。

「最良の検索キーは、利用者が知っている」これが私たちの出発点です。



Folksonomy が、e-Science を変える。

Social Tag が、データに命を与える。

「みんな」で築く e-Science、リポジトリから始まります。

教員と図書館のコラボレーション

2008年、IRコンテンツにソーシャルタグを付与するシステムを開発。



「メタデータから漏れていたキーワードが、タグによって補われていた」
「他のタグからの連想で、新たなタグが付与された」
実証実験によって確認された効果の一例です。

2009年は「教員と図書館の連携」を図りながら、実証実験を拡大します。

e-Science基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験
代表機関：千葉大学 / 連携機関：北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学

CSI第2期領域2プロジェクト

「e-Science基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験」

テーマ： eサイエンスと機関リポジトリの連携の可能性についての調査・研究

プロジェクト名：

e-Science 基盤構築のためのデータ・キュレーション機能拡充の実証実験

Webサイト

代表機関： 千葉大学

連携機関： 金沢大学 九州大学 北海道大学 大阪大学

実証実験として、コンテンツの作成者側と利用者側のそれぞれの立場から、e-Scienceデータ（主として千葉大学リモートセンシング研究センターの衛星画像）へ試行的にメタデータを付与できる環境を用意し、そのメタデータの評価をとおして、異種データの格納が可能なユーザコミュニティの需要に応えるメタデータ形式の検討を行い、人類の知的生産物の管理ツールとして機関リポジトリが位置づけられることをめざす。

千葉大学リモートセンシング研究センターの衛星画像のキュレーションに関する実証実験を期待したのだが、、、

結局は、植物標本の画像データに検索タグを付ける試みで終わってしまった

5. CSI委託事業の成果が展開できなかった

研究開発系の27プロジェクト

DRF関連プロジェクト	リポジトリと電子出版の連携モデル
遺跡資料リポジトリ	研究者情報システム連携プログラム
SCPJ	双方向型医学系サブジェクトリポジトリ技術基盤の形成
XooNlps	ユーザ・コミュニティ構築による持続可能なシステム改善
文献自動収集・登録ワークフローシステム	IRのためのシステム連携用ツールの開発
ROAT	研究者コミュニティがIRに深く関わるための入出力活性化
電子出版システムの開発	持続可能な機関リポジトリのための人材進化構造
博士論文発信支援パッケージ開発プロジェクト	e-Science基盤構築のためのデータ・キュレーション
クラウド環境における電子出版・リポジトリ連携実証実験	図書館間文献デリバリーサービスとIR
OA環境下における同定機能導入のための恒久識別子	日本の学術情報発信状況の調査
数学ポータル構築	IRへの登録が学術文献流通に対して及ぼす影響
IR推進のための視認度評価分析システムの開発	教育系サブジェクトリポジトリとしての展開
共同リポジトリ：モデルの構築と普及	
IR上の情報資源発見及びアクセス制の向上	
つくばサイエンスリポジトリ (TSR)	

今後の10年

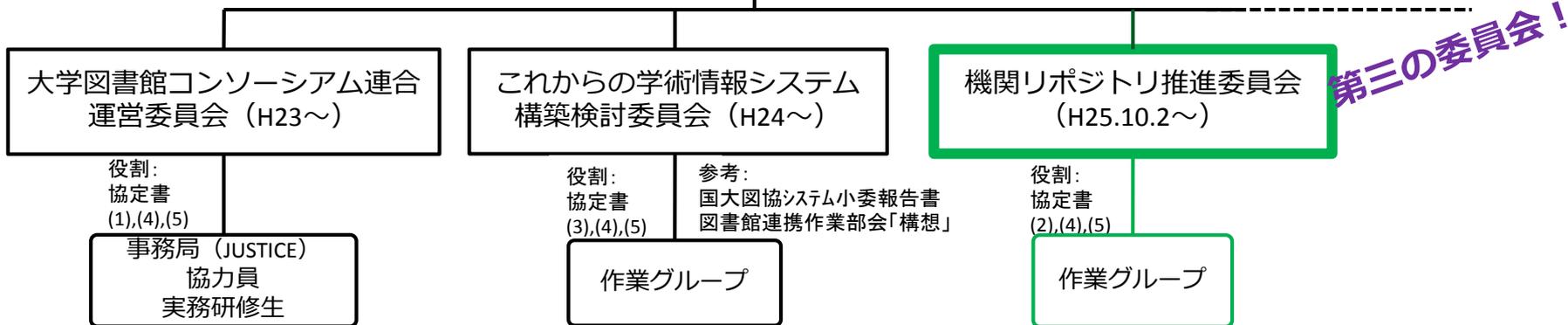


機関リポジトリ推進委員会



連携・協力推進会議 (H22~)

- ◆役割:
協定書に掲げる以下の事項の連携・協力を進める
- (1)電子ジャーナル等の確保と恒久的なアクセス保障体制の整備 →H23年度発足
 - (2)機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築 →H25年8月発足
 - (3)電子情報資源を含む総合目録DBの強化 →H24年度発足
 - (4)学術情報の確保と発信に関する人材交流・育成
 - (5)学術情報の確保と発信に関する国際連携推進



大学図書館コンソーシアム連合運営委員会 (H23~)

役割:
協定書
(1),(4),(5)

事務局 (JUSTICE)
協力員
実務研修生

これからの学術情報システム構築検討委員会 (H24~)

役割:
協定書
(3),(4),(5)

参考:
国大図協システム小委報告書
図書館連携作業部会「構想」

作業グループ

機関リポジトリ推進委員会 (H25.10.2~)

役割:
協定書
(2),(4),(5)

作業グループ

第三の委員会!

ミッション・ステートメント

『大学の知の発信システムの構築に向けて』
(平成25年12月13日)

学術情報流通に関する現状認識と将来展望に基づき、戦略的重点課題を定め、機関リポジトリの一層の推進を通じてこれらの解決に取り組む

<https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/>

戦略的重点課題

1. オープンアクセス方針の策定と展開

- 各機関の公表義務化、研究インフラ整備、コンテンツの多様化等の戦略に資するオープンアクセスのガイドラインを作成し、ゴールドオープンアクセスの進展を踏まえた種々のレベルにおけるオープンアクセス方針の策定に貢献する

2. 将来の機関リポジトリ基盤の高度化

- アカデミック・クラウド環境における機関リポジトリ基盤を高度化し、機関リポジトリの管理・運営環境を整備する

3. コンテンツの充実と活用

- 学術機関リポジトリ構築連携支援事業の成果を活用し、機関リポジトリに蓄積されているコンテンツの評価を行い、多くの利用が見込まれる分野等において未整備のコンテンツを充実させるとともに教育研究での多面的な活動を促進する方策を進める

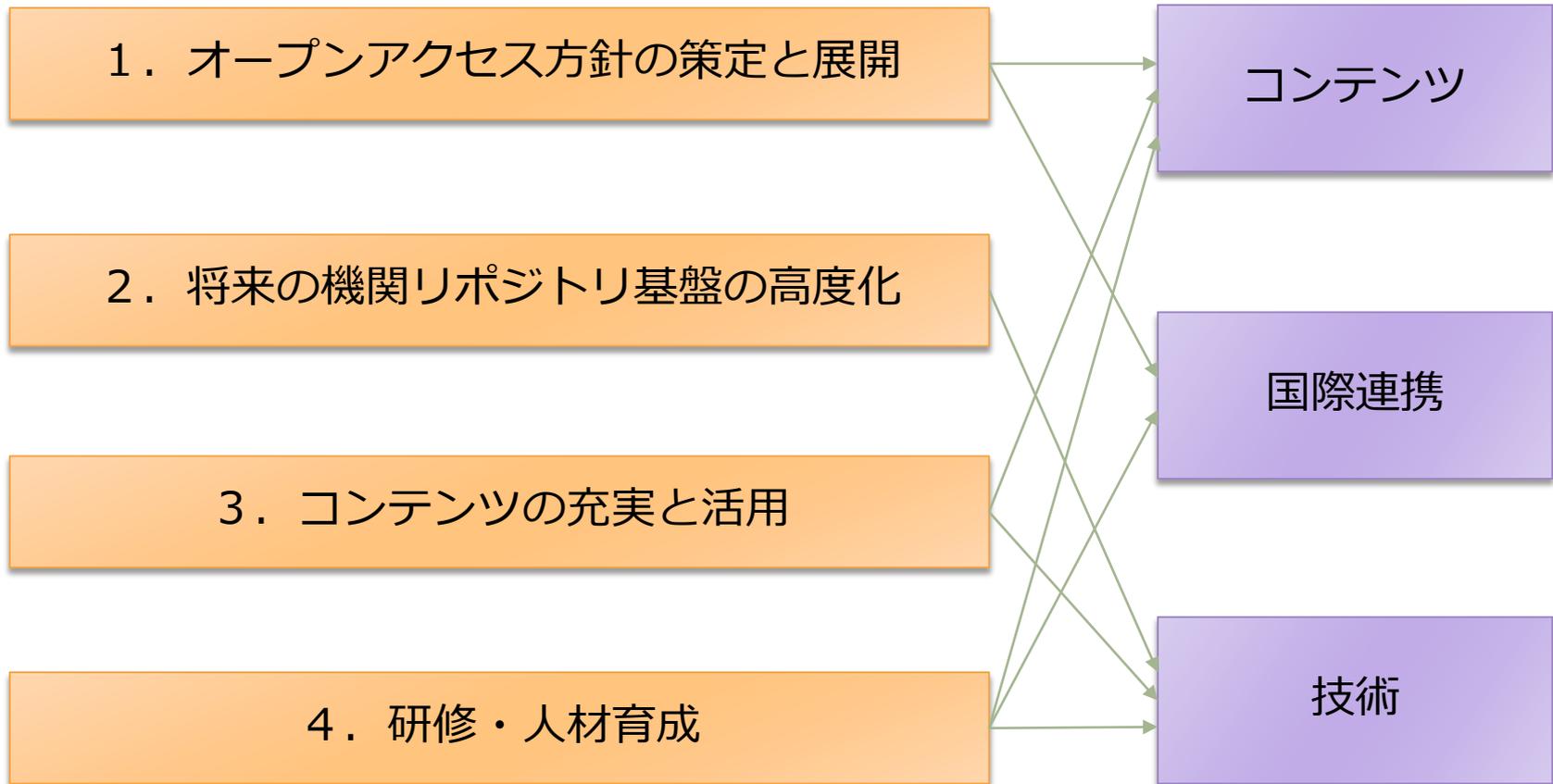
4. 研修・人材養成

- 研究データ等の文献に留まらないコンテンツを扱い、機関リポジトリの高度化や国際コミュニティと連携協力を行う人材を養成する等のために研修等を実施する

ワーキンググループ

重点課題

WG



コンテンツWG

機関リポジトリ登録コンテンツの拡大に関すること

- コンテンツ構築ノウハウの継承（とくにJAIRO Cloud新規参入館への注入）
- 博士論文の電子公開制度の実績評価と課題抽出・解決
- オープンアクセス方針も視野にいれた学内認知度向上
- リサーチデータの取り扱いに向けた調査
- 国内学術雑誌の受容
- サブジェクトリポジトリの構築

国際連携WG

国外の機関リポジトリ関係機関・団体との連携に関すること

- 国際会議動向調査
 - Open Repositories、COAR Annual Meeting、SPARC Open Access Meetin、ETD、DCC、RDA、ICSTI ...
- 海外動向調査
 - メタデータスキーマ、データ管理プラン、OAポリシー ...
- 海外との情報共有
 - 国内情報の発信、海外のリポジトリコミュニティとの関係構築

技術WG

機関リポジトリのシステム基盤の高度化に関すること

- 文献データの自動収集
- SCPJの今後の運用指針の検討
- Researchmapと機関リポジトリの連携
- 機関リポジトリログの標準処理・解析結果表示システムの構築
- 機関リポジトリコンテンツの活用方法の模索

WG全体図

国際

海外動向調査

国際会議動向
調査

図書館総合展
フォーラム
(11/6)

海外との情報
共有

リサーチデータの
取扱いに向けた
調査

OA方針も視野に入
れた学内認知度
向上

ログの標準処理・
解析結果表示
システムの構築

SCPJの今後の運用
指針の検討

機関リポジトリ
コンテンツ活用
方法の模索

博論電子公開制度
の実績評価と課題
抽出・解決

国内学術雑誌の
受容

Researchmapと
IRの連携

文献データの
自動収集

コンテンツ構築
ノウハウの継承

サブジェクト
リポジトリ
の構築

技術

コンテンツ

リポジトリをもっと教員の身近に

教員の教育や研究のワークフロー、すなわち教員の動線上にうまく、機関リポジトリを位置付けて、教員が自発的に、研究や教育の成果をドロップできるようなシステムが不可欠



「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」（クリフォード・リンチ）

オープンアクセスの10年



グリーン vs ゴールド



ゴールド問題

- APCは商業出版社の増収増益の源泉
- ビジネスとしての交渉が必要（JUSTICEの役割）
- Total Cost of Ownership = sub + APC（+overhead）